

## 1. 略歴

- 1994年3月 東京大学文学部西洋史学専修課程 卒業  
1994年4月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程西洋史学専攻 入学  
1996年3月 東京大学大学院人文社会系研究科修士課程西洋史学専攻 修了  
1996年4月 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程西洋史学専攻 進学  
1998年10月~2000年9月 ロシア連邦ロシア科学アカデミー・ロシア史研究所留学（文部省アジア諸国等派遣留学生）  
2003年3月 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程西洋史学専攻 単位取得退学  
2005年10月 博士（文学）学位取得  
2006年9月 新潟国際情報大学情報文化学部情報文化学科 専任講師  
2010年4月 東京理科大学理学部第一部教養学科 准教授  
2013年4月 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

近現代ロシア史

### b 研究課題

ヨーロッパの周縁としてのロシアから、20世紀史を捉え直すこと。

### c 概要と自己評価

2015年8月に千葉・幕張で行なわれた ICCEES（国際中欧・東欧研究協議会）第9回世界大会に関連する活動が、本期間における最も大きな活動となった。会計部長として大会組織委員にくなり、大会準備にあたったほか、報告2本、司会1本（特別セッション）にあたった。この大会において、ICCEESの執行委員会（Executive Committee）メンバーに選出された。ICCEES大会をはじめとして、研究成果の英文での発表に努め、2本の論文を公刊することができた。卒業生室企画グレーター東大塾平成26年度秋期の副塾長として企画運営および司会にあたり、学術研究の成果を社会に還元することにも若干の貢献を行なった。

### d 主要業績

#### (1) 著書

- 編著、池田嘉郎、草野佳矢子『国制史は躍動する——ヨーロッパとロシアの対話』、刀水書房、2015.10  
編著、池田嘉郎、塩川伸明『社会人のための現代ロシア講義』、東京大学出版会、2016.5

#### (2) 論文

- 池田嘉郎、「2014年ロシア＝ウクライナ紛争の歴史的背景」、『地歴・公民資料』、79、7-10頁、2014.9  
池田嘉郎、「20世紀のヨーロッパ——ソ連史から照らし出す」、近藤和彦編『ヨーロッパ史講義』、山川出版社、224-243頁、2015.5  
Yoshiro Ikeda, Autonomous Regions in the Eurasian Borderlands as a Legacy of the First World War, in Shinichiro Tabata (ed.), *Eurasia's Regional Powers Compared: China, India, Russia*, Routledge, New York, 2015, pp. 155-170  
Yoshiro Ikeda, The Notion of Obshchestvennost' during the First World War, in Yasuhiro Matsui (ed.), *Obshchestvennost' and Civic Agency in Late Imperial and Soviet Russia: Interface between State and Society*, Palgrave Macmillan, Basingstoke, 2015, pp. 61-81  
池田嘉郎、「関東大震災と日ソ関係——局地紛争の時代の災害」、公益財団法人史学会編『災害・環境から戦争を読む（史学会リレーシンポジウム2014 3）』、山川出版社、209-234頁、2015.11  
池田嘉郎、「第一次世界大戦とロシア・リベラルのヨーロッパ認識——カデットを中心にして」、『ロシア史研究』、97、27-42頁、2016.4  
池田嘉郎、「第22回国際歴史学会議 済南大会に参加して」、『思想』、1102、104-112頁、2016.2  
池田嘉郎、「第1次世界大戦と帝国の遺産——自治とナショナリズム」、宇山智彦編著『ユーラシア近代帝国と現代世界（シリーズ・ユーラシア地域大国論4）』、ミネルヴァ書房、147-168頁、2016.2

(3) 書評

Ilya V.Gaiduk, 『Divided Together: The United States and the Soviet Union in the United Nations, 1945-1965』、Woodrow Wilson Center Press, 『ロシア史研究』、94、35 頁、2014.5

Frederic Bozo, Marie-Pierre Rey, N. Piers Ludlow and Bernd Rother, eds., 『Visions of the End of the Cold War in Europe, 1945-1990』、Berghahn Books, 『ロシア史研究』、95、54 頁、2014.12

南塚信吾・古田元夫・加納格・奥村哲、『人びとの社会主義』(研究会「戦後派第一世代の歴史研究者は21世紀に何をなすべきか」編『21世紀歴史学の創造』第5巻)、有志舎、『クアドランテ』、17、187-191 頁、2015.3

木畑洋一・南塚信吾・加納格、『帝国と帝国主義』(研究会「戦後派第一世代の歴史研究者は21世紀に何をなすべきか」編『21世紀歴史学の創造』第4巻)、有志舎、『19世紀学研究』、9、139-144 頁、2015.3

山室信一・岡田暁生・小関隆・藤原辰史編、『現代の起点 第一次世界大戦』第1巻『世界戦争』、岩波書店、『史學雑誌』、124-10、1791-1800 頁、2015.10

(4) 学会発表

Yoshiro Ikeda, “Russian Health Resorts and Visions of an Empire during the First World War”, at ICCEES (International Council for Central and Eastern European Studies) IX World Congress, at Chiba, Japan, August 6, 2015

Yoshiro Ikeda, “Disabled Soldiers and the Bolshevik Regime”, at ICCEES IX World Congress, at Chiba, Japan, August 7, 2015

Yoshiro Ikeda, “The Quest for the Republican Regime in the Russian Revolution”, at The 22<sup>nd</sup> International Congress of Historical Sciences, at Jinan, China, August 25, 2015

(5) 会議主催(チェア他)

(Chair) “New Perspectives on the Russian Revolution: Looking Ahead to 2017”, at ICCEES IX World Congress, at Chiba, Japan, August 5, 2015

(6) 教科書

『世界の歴史——世界史A』、近藤和彦、羽田正、石橋崇雄、大津留厚、高山博、中野隆生、村上衛、森本一夫、池田嘉郎、小豆畑和之、執筆、山川出版社、2014

(7) 翻訳

共訳、池田嘉郎、サルキソフ K. O. 著「ロシアと日本のアイデンティティに関する比較分析」、『京都産業大学世界問題研究所紀要』、31、83-103 頁、2016.3

### 3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

東京大学卒業生室企画「グレーター東大塾 平成26年度秋期 ロシアはどこへ行くのか〜共生の道をさぐる」副塾長(第1回〜第10回の司会、第2回「ナショナリズム」講師)、2014年9月〜12月

JCREES(日本ロシア・東欧研究連絡協議会)およびICCEES幕張大会組織委員会主催「ユーラシア世界を知るための市民教養講座」第4回「暮らしと食へのまなざし——ロシアの歴史と食文化」(沼野恭子と共同講演)、2015年7月18日、千葉商工会議所、千葉市

(2) 学会

ICCEES(International Council for Central and Eastern European Studies)幕張大会組織委員会、会計部長(2014年7月から会計部長、大会開催は2015年8月)

ICCEES, member of the Executive Committee

JCREESのICCEES日本代表、JCREES参与

都市史学会編集委員;ロシア史研究会会員;史学会会員